

令和4年度 第2回郡上市図書館協議会議事録

期 日：令和5年3月15日（水）

会 場：白鳥ふれあい創造館 207号室

出席委員：一柳純子氏、遠藤美鈴氏、片桐朱実氏、清水優氏、
谷口英弘氏、三上知帆氏、宗宮昭雅氏

事務局：和田隆男社会教育課長、片桐一男図書館長、村上里絵

1. 開会

2. 社会教育課長あいさつ

3. 図書館協議会委員長あいさつ

4. 議題

（1）令和4年度郡上市図書館の活動報告について

片 桐) おとなの学校、夏休みこども教室を開催した。おとなの学校については、郡上北高校以外の12講座を開催することができた。夏休みこども教室は大変好評で、開催した15講座のほぼ全てに定員を超えての応募があり抽選となった。コロナ後にさらに人気が出たように思う。

成果としては、ほぼコロナ前に戻っている。子どもの読書では、園・学校の移動図書館や来館等、ほぼ通常通りに実施できた。移動図書館では先生方にも協力いただいた。今後も続いていくと良いと感じている。「家読」の周知・実践も前進できている。

サービスの充実、危機管理では、職員が柔軟に対応できている。感染症防止等では、日本図書館協会のガイドラインを確認しながら、県図書館の対応を見習うようにした。

利用者層の拡大として、今年度から「図書館だより」を回覧板で回すなど、1年間で図書館利用の啓発ができ、利用者も戻ってきている。

課題として、子どもは読書をする子・しない子で二極化しているように思う。電子書籍は様子を見て慎重に対応したい。また、岐阜県図書館がオンラインで利用者登録、電子書籍を利用できるため、サービスが必要な方へは紹介したい。

2年前に比べ、若い父親が増えている。時代の変化や要請をとらえ、皆さんにサービスしていきたい。

（2）令和5年度郡上市図書館の活動計画・当初予算について

片 桐) 令和4年度と同様におとなの学校、夏休みこども教室を中心に計画を作っていく。

5月には東海テレビの庄野アナウンサーによる朗読会も計画している。

村 上) 来年度の当初予算はおおむね例年通り。管理運営費の減額はシステムに関するものが主である。報酬は職員の賃金改定により増額となり、職員の待遇の改善となりありがたい。図書購入費は、市の財政も厳しい中、例年通りで安堵している。

片 桐) 市長、副市長、教育長の理解があり、ありがたい。甘えないよう、頑張っていきたい。

(3)「郡上市子ども読書活動推進計画」の実施状況について

片 桐) 読書感想文は読解力を育てるもの。指導を大事にしてもらいたい。

「子ども読書活動に関するアンケート」を実施した。結果は来年度の運営方針に反映し、協力いただいた学校・園に送付する。また、保護者まで知っていただくためチラシを作成した。家庭における読書環境では、コロナ禍以前に戻りつつあるが、公共図書館の利用は慎重で、多くの人が触れるものは避けたいという意見もある。

園・学校における読書活動では、「取り組みを行っている」が増えてはいるものの、研修会や講演会など外部との関わりは慎重になっている。「家読」の実践は増えてきているものの、啓発はまだ課題である。

児童・生徒の読書活動では、「本を読むことが好き」という子は増えているが、読書を全くしない不読者も増えている。コロナ禍の読書環境による自由な時間で、読書が好きな子はますます読書に取り組むようになってきている。しかし、もともと読まなかった子はスマホによる影響などを受け、不読者になってしまっている。今後も続かないかが心配。

図書館への意見・要望は、運営方針へ反映させていく。要望の中には「司書体験をやりたい」という生徒からの意見があり、嬉しく思う。他に、既に行っているサービスの要望があり、周知が必要と感じた。皆さんにわかってもらえるように反映させていきたい。

学校へのアンケートの集計は、学校司書の皆さんにお願いした。担当する学校の状況もわかって良かったのではないかなと思う。

清 水) コロナ禍の間は学校での読み聞かせが出来なかったが、今後はボランティアの読み聞かせなどが再開して子どもたちと地域の繋がりが増えそうで嬉しい。図書館担当の先生と連携していきたい。

子どもたちの読書は二極化していると感じている。本に親しみが無い子が、コロナ禍でより親しむ機会がなくなってしまっていた。

谷 口) 従来のように読書に親しむ場がなかった。チャンスをぜひ作ってほしい。

片 桐) 子どもにとって読書は大切だと、親も分かっているが時間が取れない。そこをどうしていくか、どう提案していくかを考えていかないといけない。

清 水) 学校で、市図書館は電子書籍が使えるかと聞かれる。中学生は図書館に行く時間がない。電子書籍なら読むのではないかな。

片 桐) 電子書籍で読む本は、雑誌や漫画が多い。書籍やコンテンツが増えるのは時間がかかる。しかし、今後電子書籍が主流になる時代が来る。

宗 宮) 図書館から学校へは移動図書館やブックトークに来てもらっている。しかし、学校では家で読書をするきっかけ作りが足りていない。本の選び方や読書の楽しみを子どもたちに身に付けてもらうことが学校教育での課題だと考えている。

児童はタブレットを持っているので、図書館のインターネット予約やホームページの機能を紹介して活用したいと考えている。

村 上) インターネット予約サービスを利用出来るのは、中学生以上となっている。小学生ではインターネット予約は出来ないが、ホームページから本を調べることが出来るので、読みたい本を探すことはできる。

三 上) 小学生は親のカードを使ってインターネット予約をしている。使いたい子どもにとっては不便に感じている。

片 桐) 利用範囲を見直す機会。時代に合わせて変えていきたい。

一 柳) 高校の様子は、一年生の時点で中学から読む習慣のある子はよく読む。入学してしばらくは読むが、その後読まなくなり、進路が決まるとまた読む、ということが多い。読みたくても時間がない。電子媒体で SNS の利用などの時間の中に読書の時間を入れるのは、難しさを感じている。

三 上) 専門書は本館が多いが、白鳥地域以外の方が白鳥まで来るのは、行っても読みたい本がなかったら、と思うと大変。他の分室にも専門書があると便利では。

片 桐) その点は、電子書籍があると便利。岐阜県図書館の電子書籍を案内していきたい。

片桐(朱)) 移動図書館のボランティアに行くと、子どもが次回の移動図書館で持ってきてほしい本のリクエストをノートに書いているが、タイトルでなくキーワードを書いて、それを図書館の職員が用意してくれている。子ども自身が正式なタイトルや著者を言えるかという点と難しい。子ども同士で読んだ本や面白かった本を共有して本に親しんでいくと良いのではと思う。

遠 藤) やまびこ園では、本を購入する予算が付いて絵本を買っているが、図鑑など1冊が高い本はなかなか買えない。小学校のように、移動図書館で来てほしい。

コロナ前のように、絵本を家に持って帰って読んだり、ボランティアに来てもらい読み聞かせしたり、今まで出来ていなかったことを再開していきたい。

片 桐) 大和町は小学校の合併で1園1小1中になる。チャンスと考えて、やまと分室とも相談したい。

本日いただいた意見を参考にしながら、今後の図書館の運営に取り入れていきたい。

5. 閉会